

令和2年度 丹波の森大学講師紹介

(敬称略)

日時	講師・講義内容
5月9日(土) 10時30分～12時 丹波の森公苑 多目的ルーム	角野 幸博 「森の住まいと町の住まい」 日本の住まいは、竪穴式住居の時代からずっと木造でした。町に暮らす人々は、長い間「庭付き一戸建て」を理想の住宅として求めてきました。今もその傾向は変わらないようです。石やレンガや土の住まいはなぜ発達しなかったのでしょうか。コンクリートの住まいが現れても、人々はなお木の住まいを愛します。最近の若者は木造民家のリノベーションに関心を寄せています。様々な視点から日本人の住まいへの思い入れの謎に迫ります。
6月20日(土) 10時～11時30分 丹波の森公苑	天川 佳美 「森と出会う、森に集う」 1995年1月17日(火)5:46 阪神淡路大震災が発生。それから15年後に神戸の港の近く、元JRの貨物跡地に「みなとのもり公園(神戸震災復興記念公園)」が誕生しました。 行政が作る都市公園ですが、神戸市緑地審議会から参加ができたことを活かし、工事中から市民が係われることを企画提案しました。公園のオープンから10年、市民自らが植えたドングリが「もり」になりつつあります。神戸の小さな「もり」の取り組みについてお話します。
7月18日(土) 10時～11時30分 丹波篠山市民センター	澤田 雅浩 「災害復興と自然環境」 自然災害からの復興は、被災者の生活再建、それを支える住まいの再建に傾注されることが多くあります。しかしながら、災害誘因としての地震や大雨がもたらす被害は、その土地の利用のされ方次第で大きくなることもあります。そのような観点から、近年発生した自然災害からの復興を概観し、生態系の回復や自然環境への配慮などがもたらす次の災害への備えについて考えます。
8月8日(土) 10時～11時30分 丹波篠山市民センター	清野 未恵子 「森林を生きるニホンザルなどの野生動物の保全と課題」 丹波地域の森林にはどんな野生動物たちが暮らしているのでしょうか。 そしてその動物たちは森林とどのような関わりを持っているのでしょうか。 農村地域では嫌われがちな野生動物たちですが、いつもとは異なる観点で、野生動物の森林との関わりについて考えます。
9月12日(土) 10時～11時30分 丹波の森公苑	上甫木 昭春 「森と共生する生活」 丹波の森研究所では、地域再生のための新たなプロジェクトを展開中です。その核となる森は、地域の風景(ランドスケープ)の基盤構造を支えています。森と人々との係わり方を、遊び・楽しみの場、生物生息の場、祈りの場、生活・生業の場など多様な側面から紹介します。それらを通じて、これからの丹波地域の人々の暮らし方や地域再生のあり方を探ります。

日時	講師・講義内容
<p>11月14日(土)</p> <p>豊岡市</p>	<p>現地学習 城崎国際アートセンター他</p> <p>■城崎国際アートセンター</p> <p>県の施設であった大会議場を改修し、舞台芸術に特化したアーティスト・イン・レジデンス(アーティストが滞在して作品を作るための施設)として生まれ変わりました。世界有数のアーティストが訪れ、日本最大級の舞台芸術による再生の中核施設として国内外から注目を集めています。</p> <p>また、国際アートセンターと結びつけて芸術家や観光のプロフェッショナルの育成を目指す専門職大学が2021年に開学予定です。</p> <p>コウノトリの住めるまち、生物多様性の豊かな自然環境にあるまちに加え、アーティストも暮らすまちへ。人口規模は小さくても世界から尊敬されるまち“小さな世界都市”の実現にむけて進められています。</p>
<p>11月28日(土)</p> <p>10時～11時30分</p> <p>丹波の森公苑</p>	<p>奥野 卓司「鳥と森と人間の文化誌」</p> <p>万葉集以来、日本人は「花鳥風月」をうたい、描き続けてきた。『鳥獣戯画』から、狩野派の花鳥画、伊藤若冲、さらに『火の鳥』やジブリアニメまで、なぜ日本では鳥を好んで、歌や絵画、芸能のテーマにしてきたのでしょうか。</p> <p>また、森を育てるためには、その高次消費者である鳥類を保護することが必要との観点から、兵庫におけるコウノトリなどの野鳥保護の歴史、比較文化と生物学の視点から総合的に解説します。</p>
<p>12月19日(土)</p> <p>10時～11時30分</p> <p>丹波の森公苑</p>	<p>嶽山 洋志「森で育つ子どもたち」</p> <p>デンマーク発祥の「森のようちえん」を皆さんはご存知でしょうか？</p> <p>森や里山、野原、川などでの生活。生き物との出会い、四季の変化、森の恵みなど、毎日が新しい発見の連続。そんな自然環境の中で行う保育や幼児教育が森のようちえんです。本講座ではその魅力や運営方法、自然環境のあり方などについて紹介するとともに、そこで育った子どもたちがどのような力を身に付けるのか、ドイツや日本などの事例を交えながら解説します。</p>
<p>令和3年 1月16日(土)</p> <p>10時～11時30分</p> <p>丹波の森公苑 多目的ルーム</p>	<p>岩槻 邦男「森で生活する」</p> <p>森から出て平原に住むようになった人の生き方、平原に出た人が森に出会う意味、今なぜ森に集うかなどの背景を、人の知の展開、文化の創造、森(環境)の多様性が生み出す文化の多様性、日本人の森との付き合い方の特性などを踏まえて考察し、日本人の「人と自然の共生」という生き方を考えます。</p>